

IRSA特別委員会報告

これまで1/23、4/17の2回にわたり、委員会が開催され、協議がおこなわれてきた。委員会は長谷川会員を委員長とし、連絡・議事録事務を杉岡（学会事務局）が担当し、事務局が欠席となる場合は、相川委員が議事録を作成することとなる。これまでの経緯と主たる検討内容は以下の通りである。

1/23の会議では、IRSA特別委員会における議論の進め方が検討され、岩本会員からの意見書を受けて、IRSA特別委員会設置の趣旨、特別委員会の性格について確認がなされた。すなわち、この委員会は、IRSA国際学会の日本への招致に関する可能性について、引き受け機関および費用の確保等についての具体的に検討をおこない、理事会が責任をもって判断と総会への報告・提案するためのデータを提供する委員会であること。具体的には、引き受け機関の存在を確かめること（村研はストレートに引き受ける能力を持ち合わせない）。引き受け機関には開催に伴う負担が想定される。また、財政の幅は想定される大会規模で大きく変わるが、できるだけ簡素なものにしたほうがよい。

○ 委員会の共通認識

- 1 大会を開催するならば、それが村研の将来により影響を与えるように具体化すべきである。
- 2 したがって、無理をして大会を開催して、後々、学会に亀裂を生じるようなことは避けなければならない。

○ 今後の手続き

- 1 まず、引き受け機関を探すことが必要であり、候補機関と人材を考えて、若干の候補に打診を図る。

第2回（4/17日）の会議では、長谷川委員長の入院により、委員長代理に磯辺委員を選出して以下のことを検討した。

- 会員に対するIRSA大会開催に関する強制的費用負担を求めることは想定しない。
- 村研が大会の開催に全責任をもつことはなく、組織として責任をもつことにはならない。強い関係を持つ団体として開催に協力するという関わり。
- 具体的な検討をおこない、可能性を検討することで日本におけるIRSA大会開催についての村研との関わりを含めて結論を出す（2004年開催について）。
- 当面、引き受け機関の可能性と費用の確保について実質的な判断材料となる資料作成を行い、6月中旬（6/13日頃）に検討する。

（磯辺委員長代理の確認を受けて事務局：杉岡がメモ作成）